

午前10時0分 開会

○委員長（佐藤 武君） 皆さんおはようございます。

ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

本日は、閉会中の委員会ですので、特に必要のない場合は、市長、副市長、支所長には出席を求めておりませんので、御了承をお願いいたします。

また、換気のため、会議室の出入口については開いたまま進めさせていただきたいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

それでは、これから協議事項に入りたいと思いますが、タブレットの利用しやすい形で部ごとの説明、協議ということで、事業の進捗状況、その他を含めて部ごとに進めさせていただきたいと思っております。順番としては、総務部、財務部、総合政策部、消防本部という形で説明の後、皆さんからの御質問等を受けていきたいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

それでは、まず総務部から事業の進捗状況、その他について御説明をお願いいたします。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本くらし安全課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） それでは、総務部資料をお開きください。

事業の進捗状況としまして、くらし安全課から新型コロナ対策衛生用品配布事業について御報告でございます。

まず、マスク、アルコール消毒液の無料配布につきましてですが、先週末で約4,500個の配布を終えております。本日1月20日をもってこの配布は終了させていただきます。このところは、日々の受け取りに来られる方もごく少数になっておりますので、5,000個にはまだ届いておりませんが、配布としては本日をもって終了、残りの物につきましては一部市のイベントや施設で使わせていただくことがあります。残りの物はあすてらすを通じまして貧困家庭へつなげていただくということで考えております。

次に、抗原検査キットの無料配布事業でございます。

こちらは、1月15日の受付分をもって終了させていただいております。配布数は1万1,471個の配布をさせていただきました。

続きまして、その他でございますが、くらし安全課から令和4年赤磐市交通事故発生状況についてでございます。

1月から12月、1年間の事故発生状況につきましては、表のとおりでございます。

総件数は72件増加しております。ただ、人身事故に関しましては、9件の減というふうになっております。

もう一点、資料はございません。

レディオモモのラジオの公開記念番組についてでございます。

前回の委員会でもお知らせをさせていただいておりますが、2月5日日曜日、この日に桜が

丘いきいき交流センターでレディオモモの赤磐中継局開局記念番組を開催いたします。二部制になっておりまして、1部につきましては13時から15時までの公開生放送、2部につきましては16時から17時までの予定で、こちらについては録音で後日の放送というふうになっております。雷門喜助さん、春風亭昇吉さん、福田廉之介さん等に御出演いただくことになっております。こちらについても観覧の募集をさせていただいておりますが、本日をもって受付終了で、この後抽せんになろうかと思っております。定員を超えた参加申込みが現時点でも来ておりますので、抽せんに来週には当選者に当選しましたということで通知を送らせていただくことになろうかと思っております。

くらし安全課からは以上です。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷総務課長。

○総務課長（花谷晋一君） 総務課からマイナンバーカードを利用した転入転出ワンストップサービスの運用開始についてお知らせします。

以前の委員会でこういった御案内を差し上げたものでございますが、マイナンバーカードを利用して転入転出ワンストップサービスということで、転出時には市役所へ来ることなく転出できるというサービスなんです。国の準備が整いまして来月の2月6日から全国的に運用を開始するということが決定されておりますので、お知らせします。

総務課からは以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

ただいま総務部から事業の進捗状況、その他、資料は特にございませんけれども、説明がありました。この部分について質問があれば受けたいと思っておりますので、お願いします。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 抗原検査キットの最初の予定は5,000個じゃったんかなあ。それで、要望があれば追加する言ようたのがこの数字になったというふうに受け取ればいいんですか。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本くらし安全課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 11月17日から配布を開始させていただきました。約1か月で予定数の5,000個に到達いたしました。まだ、12月の中旬でございましたので、これから年末年始の移動の時期を迎えるということと、第8波についてもまだ上昇傾向にございましたので、少なくともこの年明け、年末年始の移動が落ち着く頃までということで事業を継続させていただいてこの数字ということでございます。

以上です。

○委員（下山哲司君） はい、ありがとうございます。

○委員長（佐藤 武君） ほかにございますか。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 質問じゃないんですけど、一応報告といいますか、この抗原検査キットなんですけど、私がお世話になってるかかりつけ医のお医者さんが非常に助かりましたというふうにおっしゃってました。非常に検査に手数取られるんですけど、これをもう配布していただいたんで医院での負担が軽くなったということを非常に喜ばれておりました。

○委員長（佐藤 武君） ほかにございますか。

ありませんか。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 今のマイナンバーカード、転出ワンストップが始まるということなんですけど、今日の新聞で備前市が給食費云々出てましたけど、これは賛否あると思うんですけど、実はこの前私、県立図書館へ行きまして、図書館の利用カード、これがマイナンバーカードとひもづけできるということで早速やってきたんですけど、ポイントをつけるとかということで普及させようとしてますけど、それより私はマイナンバーカードの利便性というか、こういったことに使えて便利になるよということをもっとやったほうがええと思うんですけど、多分赤磐の図書館はまだマイナンバーカードとはひもづけしてないと思うんですけど、図書館の利用カードとは限りませんが、そういった形でマイナンバーカードの利用、利便性、そういったことについて何かほかに検討されているようなことはありませんでしょうか。

○委員（大口浩志君） それって市民生活部なんじゃねん。

○副委員長（安藤利博君） そうですね、マイナンバーカードの普及自体は市民課ですけど、言ってみればデジタル化を進めるということで総務部あたりでもその辺御検討いただけないかというか、検討されていることはないのでしょうか。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷総務課長。

○総務課長（花谷晋一君） マイナンバーカードを利用した住民サービスということです。

これに使っていきこうという確たるものというのは今現在ありませんが、これは普及する以上いろんなものに使っていけるものだと思っております。保険証をはじめ免許証、そういったものに活用するという事はそっちの方向で調整されているようですが、赤磐市もこれから普及率を高めてそういうものに使っていければいいなということを考えていきたいというふうに考えておりますので、いましばらくお持ちいただければと思います。よろしくお願ひします。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） この前言うたマイナンバーカードが本庁でないと受け取れないということに対しての対応を何とかという話があったんですけど、指定した日にちに各支所でできるとか、吉井から年寄りの人が本庁までもらいに行けというたら大変なことなんで、その辺はどういうふうに今考えておられますか。

○委員長（佐藤 武君） 答弁できますか。

入矢部長。

○総務部長（入矢五和夫君） 御意見いただきまして、市のほうでも今検討させていただくと聞いております。市民生活部が中心となってさせていただいたと思うんですが、その後の情報がちょっと総務部には入っていないので、検討しているというのは聞いております。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 吉井は各戸放送があるから晩の8時前になったら放送があるんじゃないけど、マイナンバーカードのあれを支所でやるからということで放送があるんじゃないけど、作るのはそこへ行ってもそりゃ近いからええんじゃないけど、これ取りに来いというのが本庁まで来いという話なんで、前に聞いたときは、機械が1台しかないからなんですよと聞かれた人には答えとんじゃないけど、そのときの返事でできたらという話だったと思うんよ。できんのならできんで通さにゃいけんのじゃけど、できるんだったら機械を借りてくりゃできるんだらうからなあ。じゃから、やったげるんなら早くやったげなんだから、今どンドンやりようられるんじゃないから、終わりのほうになってやったんじゃ意味なさん。その辺について一言だけ。

○委員長（佐藤 武君） 入矢総務部長。

○総務部長（入矢五和夫君） 地域の方、特に高齢者の方にとってはそういう御意見があることも十分理解できます。改めてこういう意見があったというのはお伝えをさせていただいて、検討するよにということでお話をさせていただきたいと思います。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） じゃから、やったげるんだったら早くやったげたほうが価値があるし、やらのならもうそれで通すし、どっちか早い判断してください。それで結構です。

○総務部長（入矢五和夫君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 入矢総務部長。

○総務部長（入矢五和夫君） 分かりました。早く判断をするよにということで調整したいと思います。

○委員長（佐藤 武君） よろしくをお願いします。

ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、総務部関係についてはこれで終了させていただきます。
次に、財務部の資料を開いていただきたいと思いますのですが、よろしいですか。

それでは、財務部のほうよろしくをお願いします。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄管財課長。

○管財課長（大窄暢毅君） それでは、財務部管財課から事業の進捗状況について御報告させていただきます。

財務部資料2ページをお願いいたします。

赤磐市役所本庁舎等整備事業についてでございます。

まず、市役所本庁舎等改修工事につきましては、中央公民館東側の駐車場の一角に現場事務所が設置され、現在基礎部の試掘調査や工事区域の電気の切替え、内部機器、防災設備等になりますが、こちらの移設を実施中でございます。今後、近々には仮囲い等、周辺の仮設工事が進んでいく予定となっております。

次に、東庁舎の外構工事等についてでございます。

こちらにつきましては、①外構工事としまして、フェンス、駐輪場等の設置を現在行っております。また、②舗装工事につきましては、未舗装部分の舗装や駐車枠ライン等の施工を今後実施してまいるところでございます。

なお、今後も引き続き本庁舎及び東庁舎において工事が施工されていきますが、来庁者、通行者、また職員も含めまして安全性の確保を第一に施工してまいりたいと考えております。

財務部からは以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） それでは、財務部の事業の進捗状況について説明がありましたので、御質問があればお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、財務部の事業進捗状況の質問を終了します。

次に、総合政策部になります。

総合政策部の資料を開いてください。

それでは、説明をお願いします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎政策推進課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） それでは、総合政策部資料の2ページ目をお開きください。

その他といたしまして、ひかりの実プロジェクトについて御説明させていただきたいと思っております。

地域への愛着を醸成していくことや多世代の交流の場づくりを目的といたしまして、果実袋に笑顔を描くワークショップ（ひかりの実づくり）や、この作成したひかりの実を樹木に展示

する作業を児童や地域の方々が共同で取り組むものでございます。

①としてワークショップ、もう過ぎておりますが、令和5年1月17日を皮切りに山陽西小学校の児童や保護者の方々、それから山陽連合町内会長の皆様方、山陽桜保育園、山陽西幼稚園の園児の方々、それから公民館活動等の団体の集まり等におきまして、ここに持ってきておりますが、この果実袋に絵を描く作業をまずさせていただきます。それから、この絵を描いたものにフルーツキャップを中に入れてまして、それから小っちゃい豆電球をこの中に入れて飾るという展示を、令和5年2月5日の日曜日から3月5日の日曜日まで、山陽西小学校の校庭の樹木に飾るというイベントをさせていただく予定でございます。

取りあえずワークショップは絵を描く作業をしているところで終わっておりますので、展示の前、2月4日にはフルーツキャップを内蔵したり、ライトを内蔵したりというワークショップをもう一回させていただこうと考えております。

簡単ではございますが、以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

総合政策部、その他のみということになりますが、質問があればお願いします。

大口委員。

○委員（大口浩志君） これは、山陽団地の活性化ということで何がしかのイベントを実施します、内容は未定ですという御説明が以前あったと思いますけども、その延長線上のものという捉え方でいいんですかね。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） こちらの事業について、9月の補正予算で事業費を御提案させていただきました。そのときに概要を山陽団地の活性化の取組の一つというところまでの御説明はさせていただいたんですけれども、具体的な内容、日程等がまだそのときは詳細が決まっておらずでして、その一環として今回事業をさせていただくということでございます。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） そのワークショップですけど、ここには1月17日火曜日等とあるんですけど、これは何日かされるのでしょうか。

その展示の取付け、今4日というふうにおっしゃいましたけど、展示するほうですね、その日取り、分かれば教えていただけませんかでしょうか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） ワークショップ等と書かせていただいておりますのが、山陽西小学校の児童、保護者の方々にしていただいたのが17日でございます、それ以降、例えば2月1日に連合の役員会等もありますので、その場で皆様方に作業をしていただいたりとか、山陽桜保育園とか、細かい日程はございますが、1月21日には地区社協の会合があったりしますので、その場で作っていただいたり、その地区社協の認知症研修会というのが1月26日にあるので、そちらでしていただいたりとか、1月中にいろんな団体さんにお手伝いをしていただくと思っております。

それから、展示について、展示の前日の2月4日にいろいろと最後の仕上げをする作業を山陽西小学校でさせていただき、2月5日の日曜日の午後になりますけど、取り付ける作業をさせていただきます。

一回光らせますと1か月ずっと照り続けますので、今もずっと光ってるんですけど、1か月後の3月5日に収穫をするという予定でございます。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） いいですか。

○副委員長（安藤利博君） ありがとうございます。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

保田委員。

○委員（保田 守君） それはどのぐらいの数になるんですか、大体。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 今サンプルで持ってきております白色と、あとオレンジ色の袋、それからピンクの袋を全部合わせて1,000個、御用意させて……。

○委員（保田 守君） それはグラウンド周辺に取り付けるということで。

○政策推進課長（山崎和枝君） はい、グラウンド周辺の樹木が20本ぐらいあるので、それに配置よく、これも今回ワークショップにアーティストをお招きして、その方々の監修によって白の配置とオレンジとピンクの配置をいのようにセッティングしていただくというふうにさせていただきます。

○委員（保田 守君） 分かりました。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） その光る根源は何。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） LEDの小っちゃい豆電球です。ボタン電池のような形にな

っているので、これは一回スイッチを入れるとずっと光り続けるという……。

○委員（下山哲司君）　ずっと光るん。

○政策推進課長（山崎和枝君）　ずっと光る、1か月ぐらい。

○委員（下山哲司君）　1か月もつん。

○政策推進課長（山崎和枝君）　もちます。

○委員（下山哲司君）　すげえなあ。

○政策推進課長（山崎和枝君）　ということです。

○委員（下山哲司君）　見せてもらいに行きます。

○政策推進課長（山崎和枝君）　2月5日の夕方ぐらいから展示をしておりますので、通りがかりにぜひ見ていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（佐藤 武君）　ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君）　すいません、ひかりの実ということで何となく思いは分かるような気がするんですが、改めてここで、説明があったかもしれないんですが、ひかりの実というのはどういうコンセプトでやろうとするのか、その狙いというか、その基本的な部分をもう一度、課長、説明してもらってもいいですか、どういう思いでやるのか。

○政策推進課長（山崎和枝君）　委員長。

○委員長（佐藤 武君）　山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君）　こういうイベントを見つけたきっかけというのが、これを手がけられているアーティストさんが東北の大震災の後に地域の方々が大変疲弊をされているところで、小さい光で、これがたくさん寄ってくると暖かい光になるし、この笑顔がにっこりするということで心が安らぐというようなことでこのイベントを手がけられたということを知りまして、地域の住民の方々が心地よく住んでいただき、この作業自体は小さい保育園のお子さんでも高齢の方々でも誰でも簡単にできる作業ですので、多世代の方々が参画して、自分が作ったものがあそこで光っているよというのをまた見に行ってくださいというようなことで地域への愛着の醸成を図っていきたいということで、このやり方を今回取り入れさせていただこうと思って始めました。

今回は、山陽団地をフィールドにさせていただいて実証的にさせていただこうと思っております。ですので、今後は市域のいろんなところで広げていきたいというふうに考えております。ですので、行政が主体でやるのではなく、地域の方々がしっかり参加して地域を盛り上げていこうという機運の醸成を図っていきたいということで、今回これを企画させていただいております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君）　ありがとうございました。しっかり交流してコミュニティ増進を図

っていただきたいと思います。

よろしいですかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、総合政策部について、終了します。

次に、消防本部に入りたいと思います。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） その他の令和4年中の火災、救急の概要について説明させていただきます。

資料2 ページを御覧ください。

初めに、火災の概要ですが、令和4年中における火災件数は34件で、昨年より5件増となっております。内訳としましては、建物火災12件、林野火災5件、車両火災2件、その他火災が15件となっております。それに伴い罹災世帯数と罹災人員が増えておりますが、全焼火災が少なかったせいか、損害額が昨年に比べ1,114万2,000円のマイナスとなっております。

また、死者は発生しておりませんが、やけどによる負傷者が4人増えております。

今後は、火災による死傷者ゼロを目指して、以前にも増して防火に対する呼びかけと体験型イベントを通しての啓発を強め、赤磐市民一人一人の火災への意識高揚とそれに伴う住宅用火災警報器の普及により火災のない安全・安心な住みよいまちを創造し推進してまいります。

次に、3ページの救急の概要を御覧ください。

救急の出動件数は2,121件と、昨年比333件で18.6%の増加となっております。この救急出動の増え幅は、県下14消防本部の全体的な傾向でございます。コロナ感染者の増加に伴い保健所依頼の移送や感染を起因とした搬送が増えたものと考えられます。

救急の内訳としましては、急病が全体の64%、一般負傷17%、交通事故7%、転院搬送10%、その他が2%となっております。

署所別出動件数の内訳は、本署が全体の59%、東出張所が28%、北出張所が13%となっており、出動件数は本署が170件、東出張所が125件、北出張所が38件増加しております。

続きまして、下段の救命処置対象者の欄を御覧ください。

救命処置対象者は、昨年と比べ微減の59人で、器具を使用した気道確保の実施件数が減っております。医師の指示下で積極的な蘇生処置を実施しておりますが、社会復帰率がまだまだ目に見えて上がっていないところでございます。居合わせた人が傷病者に最善な処置と迅速な救急搬送ができるよう、広報紙やホームページでも蘇生法の実施や救急車の適正利用も広報しているところでございます。

続きまして、4ページを御覧ください。

資料は写真しかございませんが、多目的消防自動車廃車について御説明を申し上げます。

現在北出張所へ配備しております多目的消防自動車は、平成9年2月に配備され26年目を迎えようとしております。この多目的消防自動車は、北出張所管内の地理的状況と消防水利の状況から消防自動車が直接水利部署できない場合を危惧いたしまして可搬ポンプを積載し、またホース20本を車両を走らせながら延長できるようにした車両でございますが、配備された直後に岡山市消防局には消防ヘリが配備され、平成21年4月には県防災ヘリが配備され、2機体制での救急、救助、火災防御体制が確立されております。

また、消防水利が不足の場合に備え、北出張所のもう一台のポンプ車には特殊薬剤を用い燃焼物に対し透過性を上げ、冷却、浸透効果により少量の水で確実な消火と再燃の少ない特殊装備の車両が配備されております。

令和元年には、美作岡山間道路の熊山吉井間の開通により出動態勢が大幅に見直され、以前の北出張所管内に応援の増強隊が到着する時間も約5分ではございますが短縮することができております。

このような時代背景により、多目的消防自動車が出動して実際にホース延長機能を有効に活用できた事例がなく現在に至っております。本来であれば更新する車両であります。北出張所の4名の勤務人員で2台を同時に運用することも難しい状況でありますので、多目的消防自動車については廃車させていただき、今後の北出張所配備車両は消防ポンプ自動車と救急車の2台体制にさせていただきたいと考えております。

消防力の低下が発生しない装備の充実と少ない人員で最大限の活動と消火効率を追求し、多目的消防自動車が担っていたホース延長機能は赤磐市消防団との円滑な連携体制によって十分カバーできるものと考えますので、御理解のほど、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

消防本部からの説明がありました。これについての質問があればお願いします。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 3ページの資料で黄色で囲っていただいているんですけど、1日の平均出動件数が0.9件増えているという数字が出とるんですけど、消防本部として、例えば救急、火災で出払っている、今ここでまた次の119が来たら怖いなあというような綱渡りのようなことがもしかしたら起きつつあるのかなあというふうなことを想像するんですけど、その辺についてはいかがなんでしょうか、現状は。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 大口委員の御質問にお答えさせていただきたいと思っております。

現在救急車5台の体制で、5台が全部出払って出動しているという事案が多数発生しております。そういった場合にはどうするかというような御質問かと思いますが、そういった場合には非番招集を呼んでも救急車がないので対応できません。そうなりますと、隣の岡山市、東備消防であるとか、そういった近隣の消防に応援を求めまして救急に対応していくという形を取らざるを得ない状況でございます。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 実際にこの数字の中に今のような応援を頼んだ事例が1件、2件、あるのでしょうか。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 今のところは隣の消防にお願いをするというような事案は発生しておりませんが、救急搬送して岡山市内から赤磐市内に緊急走行で帰ってきて救急に対応したという事案は多数ございます。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 交通事故の出動件数で、令和3年の95件から今年が141件とざっと5割ぐらい増えてるんですけど、先ほどの総務部の説明で人身、交通事故のほうですけど、前年が92件で今年が83件という、若干減ってるということなんで、その辺の兼ね合いというのはどういうふうになってるのでしょうか。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 急病が非常に増えてございます。交通事故が減っているという内容でございますが、交通事故は人の流出、流入等々が少ない状況で交通事故が減っているのではなかろうかというふうに推測いたしております。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 交通事故の件数は減っているんですけど、だから総務部の交通事故の件数と消防の出動件数が何かやや乖離があるというか、事故の件数より圧倒的に救急のほうが多いんですけど、この辺はどういうふうになっているんでしょう。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 件数の乖離、数、人員のことを申し上げたらよろしかったでしょうか。

○副委員長（安藤利博君） 総務部の交通事故のほうですけど、これはだから83件と先ほど説明あったと思うんですけど、その件数より消防の出動件数が圧倒的に多いんですけど。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 出動件数と搬送人員のことでよろしいでしょうか。

○委員長（佐藤 武君） 総務部との件数の食い違いがあるということだと思います。

○消防長（井元官史君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 井元消防長。

○消防長（井元官史君） 安藤副委員長のおっしゃられとるのは、総務部の人身事故の数と消防が交通事故に出動しとる件数に少し乖離があるという御質問かなというふうに理解します。それでよろしいでしょうか。

○副委員長（安藤利博君） そうです。

○消防長（井元官史君） 実際に赤磐市のこの総務部の事故発生は、あくまでも後から人身事故になった事象も含めまして、最初は救急を呼ばないような事故でも後から病院に行ったらそれが人身取扱いになったりするような関係もあるところと、消防は交通事故もこの人身事故イコールすぐ救急車を呼ぶ事象ばかりでもないということで、ここの件数の差があるのではないかと理解するんですけども、質問に答えてるような、いいですか。

○副委員長（安藤利博君） 私の勝手な解釈、間違ってたらいいです。訂正いただければ。

私先ほど言ったのは、総務部の人身事故だけ言いましたけど、そうじゃなくて、総件数のほう、交通事故、だから人身事故じゃない、そこまでいかない事故に対しても救急は一応出動していたというふうに理解してよろしいですか。だから、警察のほうではその人身事故まで、ちょっと苦しいけど、言ってること分かりますでしょうか。

○委員長（佐藤 武君） 出動要請があれば出動されるんですよね。電話なりで出動してくださいと、救急車手配願いますということであれば出動するということがいいんですよね。

○消防長（井元官史君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 井元消防長。

○消防長（井元官史君） 総務部のデータの数字と、消防はあくまでも119番通報があつて出動した内容が、これが交通事故か、交通事故ではないかっていう、その区分で出している統計上の数字なので、なかなかちょっとそこの辺が実際に総務部、赤磐署の出している数字と消防が出している数字はちょっとリンクしにくいかなというふうに理解していただければと思うんですけども。答弁になってないようですけども、すいません。

○副委員長（安藤利博君） 部署が違うんで。だから……。

○消防長（井元官史君） これがもう現状なので、御理解いただければと思います。

○副委員長（安藤利博君） 仕方がない分はあるかもしれませんが。単純な疑問として、その人身事故の件数より救急、消防のほうに要請があったのが随分多いからちょっと疑問に思っただけなんですけど、統計取られとる部署が違うんで同じようにはいかないのかもしれませんが、何かその辺は後で……。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） すいません、補足をさせてください。

交通事故で人身事故になるのはどうしても人がけがをした場合に人身事故というようなカテゴリーで取られると思うんですけども、物損事故であることもございますし、単独事故であるということもあります。いろんな形の交通事故がございますので、そういった例えば自転車で転んでも交通事故になります。車両でぶつかっても交通事故になりますというようなところで件数の乖離ができてしていると推測されます。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ほかに。

安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） ちょっとまだすっきりしないんですけど、それでいいです。

今の続きで、一番下の一般市民による除細動器、AEDですけど、この実施件数2件あるんですけど、なかなかこれ素人がやるのは難しいと思うんですけど、分かっておればで結構なんですけど、具体的にこの2件どういったケースだったか、教えていただければ。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 実際に実施された内容といいますのが、運動競技をされていて、そのグラウンドにあったAEDを持ってきてという内容でございます。

詳しいところが手持ちの資料がございませんので、申し訳ございません。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 今まで問題になりようたことがちょこちょこあるんじゃないけど、救急車をタクシー代わりに使われる人があったんじゃないけど、最近はその状況はどんなですか。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 下山委員の御質問にお答えさせていただきたいと思います。

タクシー代わりというような内容ではございませんが、比較的この数字を見ていただければ分かるように、軽症での搬送が非常に多くございます。去年は723件、本年度中は905件という

ことで、軽症が182件の増加になっております。この中には、非常に軽いような症状でも救急を要請されるという内容のことがいまだかつて減ってはいません。

以上でございます。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） その軽症というのは、やっぱりその内容が含まれとるということですか。そういうのに対しての対応が今どういうふうにできよんか、その辺をちょっと。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 取りあえず、その救急要請があった場合には軽症か重症かというのは119番入電のときには分かりません。なので、実際に救急に出動いたしまして、現場でその傷病者の方にお会いしてしっかりバイタル、その血圧であるとか、体調であるとか、いろんなことを聴取した結果、病院には搬送しないというような判断もいたしております。その説明は十分にコンセンサスが得られるように説明してお断りをしているような現状でございます。

以上でございます。

○委員（下山哲司君） ありがとうございます。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

ほかにございますか。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 北出張所の、これ廃止されるのはいいと思うんですけど、実際にあまり使われてないという状況なんで。その後の消防車と救急車1台ずつですかね、ということでコロナ禍でかなり増えてきたというのは分かるんですけど、でも、これから5類になるとかいろいろ話が出ておりますから少し変わってくるのではないかなと思うんですけど、ただ北出張所に1台しか、よそが何台あるか分かんないんですけど、1台しかなくてそれが出動したときにまた次あったときに、山陽とかいろいろなところへ行くにしてもちょっと時間がかかるんじゃないかなあという気がするんです。

なかなか予算も救急車も結構なウン千万円するから大変だと思うんですけど、今後そういった計画を立てたほうがいいんじゃないかなあと、増やすことをですね。何か災害があったときに本当にもう対応できないんじゃないかなあという気がするんですよ。

だから、そういった意味で追加の、この使われないものもいいとしても、救急車のように基本的によく使われるし、最近よく走ってるのをよく見るんで、最近多いんだなあというのをよく感じるんです。だから、そういった全体的にもう少し配備を考えられたほうがいいんじゃないかなあと思うんですけど、その辺、消防長はどんなですかね。

○消防長（井元官史君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 井元消防長。

○消防長（井元官史君） 松田委員の御質問にお答えさせていただきます。

全体的な話になるんですけども、救急車の保有台数というのは赤磐市は近隣の消防本部と比べては恵まれているほうで、救急車を今言われる本当に何か不測の事態があったときには、今の消防本部の保有台数を超えるような災害がありましたらもちろんその周りの消防本部の協力体制をいただくとかということも県下で統一事項となっております。

今後ですけど、赤磐市の人口がもうちょっと増えてきて、この救急の需要ですかね、これがもう右肩上がりに増える傾向でしたら、もうそれこそそうなってから整備するというのは手後れになりますから、今年一年で333件増えてます。これは単年度の今の結果ですけども、今後注視しながら、整備に必要であればもちろんそれは前向きに考えていけないと思わうんですけども、救急車を増やしても実際の人員が増えないことには車があっても結局その対応に遅れるというような裏側の事情もございます。そこらあたりも今後は総合的に考えて、それぞれ市長部局とも協議をしながら、人員増も含めてそういう消防力の強化は今後前向きに研究検討していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） もちろん人員も必要だと思うんです。全体的に職員の数を減していこうと今計画をされてるんですけど、やっぱり必要などにはきちっと配備するべきだと思いますし、救急車、結構受入れがなかなかできない状況で途中で待機してますよね。例えばエディオンの前でよく止まったりするんですね。ああいうのをよく見かけると、その間に今度は別の何か救急が来たときに、事故もそうだし、急病もそうだし、火事の関係で出てきたりとか、そういったときだけでも出動してたら次出せないということもありますんで、命より大事なものは無いと思いますので、そういった人員配置も含めた計画をきちっと、今少ないからじゃなくて何かあったときのためにやっぱり必要なもんだと思うんで、もう少し検討されたほうがいいんじゃないかなと思います、要望ですけど。

○委員長（佐藤 武君） 要望でいいですか。お答えは要らないですか。

ほかにありますか。

多目的消防車の廃車についてはよろしいですか。

○委員（下山哲司君） よろしいですよ。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

○委員（下山哲司君） はい、状況把握できてます。

○委員長（佐藤 武君） ちょっと思ったんでお尋ねしたいんですけど、要するにほかの消防機種というか、消火能力のあるものがあるということですけども、この廃車する多目的消

防車、これを廃車する場合はそのまま廃車ということなんじゃないかな。

というのが、全国の自治体でもこういう車両を欲しがってるところもひょっとしたらあるのかなと。それから、極端に言えば海外とかということも含めて、もったいないじゃないですか、これも見た感じ、その使用頻度は物すごく低いと思うんですけど、もし有効利用できるのであれば、廃車するだけじゃなしにそういう方法も考えてもいいのかなと思うんですが、その辺のお考えはいかがですかね。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 大変貴重な意見ありがとうございます。検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、特にないようですので、執行部ほかにございませぬ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） 事務局も特にないですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、その他のその他で協議に入りたいと思います。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 2点あるんですけど、まず1点目、消防の関係で、先ほどのデータにも出ておりましたが、残念ながら、近所周りも含めて火災を目にすることが多かったんですが、その際に火災現場での共済制度といいますか、保険制度といいますか、もちろん常備消防の方々、消防団の方々、それなりの共済というか、保険制度が適用されてると思うんですけども、一般市民が手伝ってくれる場合もあるかと思いますが。そういった場合の勘違いしとつたら困りますので、改めて現状を教えてください。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 一般市民の方が火災現場に出くわした場合には火災を消火するために協力していただくわけですが、そのときにけがをされた場合には共済制度から補償がなされるようになってございます。それこそ有事のときには本当に助かる存在でございます。皆さんにひとつ御協力をいただきまして、早く鎮火する、早く人命を救助するというようなところで御協力をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（佐藤 武君） もうよろしいか。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） そしたらもう一点、ふるさと納税に関してお聞きしようと思います。

昨年度の決算数字で言えば、おかげさまで赤磐市は右肩上がり、ウイングが広がって増えとるとのこと、それとおかげさまで黒字になっていることの御説明が決算のときにあったと思いますが、そこで金額が増えたり件数が増えるとそれに伴っていわゆるクレーム、苦情等も増えてくるのかなあというふうに想像するんですが、現状はいかがでしょうか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） ふるさと納税の御質問にお答えします。

今正確な数字は持っておりませんが、クレーム件数についての御質問でした。クレームにつきましては、赤磐市のふるさと納税で一番寄附額を集めておりますのが果物系になります。桃とかぶどうとかになりますので、これがたしか6割、7割ぐらいが果物系です。ですので、当然その生育状況、天候とかによりまして、物すごく雨が多い年、それから物すごく日照りが続く年によって当然品質が変わって来たりしますので、それに合わせて発送のときに暑くて傷んでいたとかというようなことは令和3年度はちょっと多かったです。それは、ふるさと納税に占める割合が多いからというようなことではなかったと認識しております。

一方で、本年度につきましては、前年度の反省等も踏まえていただきまして、発送等にも気を遣っていただいたりというようなこともありまして、ふるさと納税の寄附額が多かったからクレームが増えるというようなことには今はなっていないかなとは思っております。

ただ、どうしても生もの等を扱ったりすることになりますので、一定のクレームはありますが、寄附額が多いからということの要因ではないというふうには考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 先ほども御説明の中にございましたけど、多分赤磐市の場合はもう桃、ぶどう、こういったものが中心になつとられるんじゃないかなあと思います。クレームという言い方をさせていただいたのが、残念ながら、桃もぶどうも他市町村にもございます。赤磐市から送ったものが何じゃこりやというようなものになると、悪いほうの回転が始まってしまうのを危惧されるんです。今現在はふるさと納税によって赤磐市は潤っている。ですが、それが逆回転し出したときが怖いかなあ。だから、赤磐市にしかないもの、もしくはそういう返礼品を求めないようなものであるとか、いろんなやり方があると思うんですけど、皆さん方もニュースでお耳にされとると思いますけど、東京を中心とした都会がウン十億円規模の税金が外へ出ていってもう往生しよう。さすがに専任の職員を雇うてその逆回転を止めようという取組をすごく始められとるところが多いので、結局は地方へこれが響いてくるのかなあというふうに思いますので、たしか年頭の御挨拶みたいな中で山陽新聞さんがやられてましたけ

ど、各首長を、たしか友實市長、ふるさと納税で税込アップみたいなことを言っただけじゃないかなあと記憶をするんですが、その辺に向けての、今現在調子がいいときだからこそリスクヘッジをきっちりやっていただけるような取組をお願いしたいんですが。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 今現在正確な数字を持ってはおりませんが、御報告をさせていただきます。

令和3年度の実績は、先ほど御案内いただいたように、3億円を少し超えるような数字でございました。令和4年の暦年です、1月から12月の寄附額はおよそ2億8,000万円にとどまっております。年度でいきますと、まだあと3か月程度ありますので最終的にどうなるかは分からないんですが、暦年で言いますと2億8,000万円程度ということになっております。最終的に、いわゆる黒字になるかどうかは精査していかないとはいえないんですが、今の2億8,000万円から3億円程度を維持する、さらに市長の御挨拶にあったように増加していくというようなことも私どもも考えてはおります。ですので、桃、ぶどうの果物だけでなく、当然赤磐市にもいろいろ中小企業さんもおられますので、そういった方々にも出しているところではあります。

ですが、コロナで家で食べれる物とか、あとは家で何か作って食べれる物とか、例えばオゾン脱臭機とかというふうなのでコロナの生活を少しよくするというようなものがこれまでは人気だったような傾向もありますので、今後寄附者の方々の動向等も見据えながら新たな返礼品の企画、例えば赤磐市に来て体験するというような企画でありますとか、果物等に依存をしておりますが、少しは違うもので寄附額を獲得するような取組を次年度以降はしていきたいと、今から検討を進めていきたいというふうには考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 今も山崎課長おっしゃられたとおりなんですけど、実は先日RSKで、正式名称をちょっと、小型のミキサーですか、あれも非常にいい宣伝になったんだろうと思うんですけど、そういった形でユニークな事業をされている方おられると思うので、商工会さんあたりとかももっと積極的にその返礼品を提供してもらおう業者さんとかがユニークなところをされてるとは思うんですけど、そういったところで、今おっしゃられた物ではないソフト面の返礼も含めた形でもう一段そういったところを御検討いただければよろしいんじゃないかなと思います。

○委員長（佐藤 武君） 答弁しますか。

○副委員長（安藤利博君） いや、もうやられてるでしょうから、もう一段お願いしたいとい

う程度のことでございます。

○委員長（佐藤 武君） 要望で。

○副委員長（安藤利博君） はい。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 先ほど安藤副委員長が御紹介していただいた返礼品です。そこらにあわ丸という泡立て器と、赤磐市内で備前焼をお作りになっておられる方のコラボレーションで、今回返礼品で登録させていただいております。

あわ丸については、単品でもこれまで実はお出しさせてはいただいていたんですけども、そういった地元の企業さんとか作家さんとかとコラボレーションをするということが地元企業さんとかの育成にもつながってくると思っております、そういうような返礼品のほうも企画させていただいております。

ちなみに、テレビに出た翌日が昨日だったんですけど、早速お申込みもあつたりとかというようにありますので、私どもの返礼品の企画、それからあといろんなメディア等で取り上げていただくことによって大分影響が違ってくると思いますので、そういったプロモーション活動なんかもしっかりしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） よろしく申し上げます。

安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 全然違うことですが、花谷課長、ちょっとその名札見せていただけませんか、今つけられているのを。

何が言いたいかといいますと、全く見えないんですよ。何のためにつけてるのかということで。年寄りだからというわけじゃないんですけど、つけられてるのは担当もされてる、対応されてる方が誰ですよということが分かってもらうためにつけてるんだろうと思うんですけど、その文字ではよっぽど近づいてまじまじと見ないと分からないんですよ。だから、その辺もっと前の文字を大きくするとか、そういったところを御検討いただけないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） 御指摘いただきましてありがとうございます。検討してみたいと思います。なるべく見えやすいものということで検討してみたいと思います。よろしく申し上げます。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） もう本当にのぞき込むようにして見るのは失礼なんで、ちょっと見づらい、そうするとどなただったか、顔は分かるんだけどということになるんで、ぜひその辺ひとつ目的を踏まえて御検討いただければと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（佐藤 武君） まあまあいろいろ御意見あります。あまり大きくしても、どうしても相手職員のお名前を聞きたい場合はお名前をということで確認する場合もあるんで、あまり名前を大きくしても名札大きくなるばかりですので、そこらあたりも検討してみてください。ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） じゃあ、その他のその他ということで特にないということで終了させていただきます。

それでは、以上をもちまして総務常任委員会を閉会させていただきますが、次回の委員会が2月13日月曜日10時からということで予定をしておりますので、皆様も予定をお願いしたいと思います。2月定例議会に向けての議案等の協議になると思います。

それでは、閉会いたします。

お疲れさまでした。ありがとうございました。

午前11時5分 閉会